

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 倉吉東高等学校

重点項目	大学進学	提出日	平成31年4月25日
------	------	-----	------------

1 学校目標																									
「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。																									
2 重点項目に係る目標・成果																									
目標	成果																								
<p>中部地区を代表する進学校として、国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程編成に努め、生徒の着実な学力の伸長を図るとともに、生徒・保護者・中学校などからの期待にふさわしい進学実績を維持し、さらなる向上をめざす。</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>現役合格者数</td> </tr> <tr> <td>国公立大学以上</td> <td>125名以上</td> </tr> <tr> <td>中堅国公立大学以上</td> <td>45名以上</td> </tr> <tr> <td>難関国公立大学以上</td> <td>15名以上</td> </tr> <tr> <td>東京大学</td> <td>3名以上</td> </tr> </tbody> </table>		目標		現役合格者数	国公立大学以上	125名以上	中堅国公立大学以上	45名以上	難関国公立大学以上	15名以上	東京大学	3名以上	<p>国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程により、生徒の着実な学力の伸長を図ることができた。特に難関国公立大学以上の現役合格者の数値目標を達成した。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>現役合格者数</td> </tr> <tr> <td>国公立大学以上</td> <td>113名</td> </tr> <tr> <td>中堅国公立大学以上</td> <td>41名</td> </tr> <tr> <td>難関国公立大学以上</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>東京大学</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table>		H30実績		現役合格者数	国公立大学以上	113名	中堅国公立大学以上	41名	難関国公立大学以上	15名	東京大学	1名
	目標																								
	現役合格者数																								
国公立大学以上	125名以上																								
中堅国公立大学以上	45名以上																								
難関国公立大学以上	15名以上																								
東京大学	3名以上																								
	H30実績																								
	現役合格者数																								
国公立大学以上	113名																								
中堅国公立大学以上	41名																								
難関国公立大学以上	15名																								
東京大学	1名																								
3 実施事業																									
<p>【高等学校課事業】</p> <p>■学校連携チャレンジ・サポート事業</p> <p>3校合同東京大学対策講座、1年生難関校志望者学習研修を、鳥西生、米東生をはじめとする県下の超難関大学志望者とともに受講、研修を実施した。多くの刺激を受け、本校超難関大志望者の学習意欲を高めた。また、参加した教職員との情報交換が、本校教職員の教科指導力の向上に影響を与えた。</p> <p>■鳥取県版キャリア教育推進事業</p> <p>文理選択とキャリア形成（1年）、学部学科研究と進路選択（2年）、大学受験の現状と大学での学習内容（3年）のそれぞれについて、有識者や大学職員を招いて講演を行った。社会の状況や大学の具体的な情報が生徒に伝わり、生徒の目標設定や意識付けに強い影響を与えた。</p> <p>■21世紀型能力を育むための講師派遣事業</p> <p>本校教員による研究授業および近畿大学附属高等学校の大場錦志郎教諭による師範授業と4月に石川慎一郎教授（神戸大学）によるAL理論研修を実施した。</p> <p>【独自事業】以下の記号はH30年度学校運営に基づく各種事業計画一覧(別添)より引用</p> <p>■B-1(2)②第3学年勉強会 ③進路指導資料の充実</p> <p>学年全体の学習意識を高めるために、3年生の部活動引退後の夏季休業中に5日間連続で校内勉強会を実施した。また、規則正しい学習習慣の確立を図るために、受験問題集、参考資料等を整備し、生徒一人一人の学力に応じた活用方法を提示し、学力の伸長をはかった。</p>																									

### ■B-2 (3) ①タブレット端末活用研修

本校教員による研究授業および近畿大学付属高等学校の大場錦志郎教諭による師範授業、研究協議、講演会を行い、タブレット端末の授業活用を促進した。

### ②予備校派遣

駿台予備校の夏季、冬季研修会に4教科(国語、数学、地歴公民、理科)から一名ずつ派遣し、予備校講師の実践から学ぶことで、本校教員の教科指導力の向上を図った。

### ③教科指導先進校視察

学校法人呉武田学園武田高等学校および学校法人広島城北学園広島城北高等学校に情報科教員一名を派遣し、ICT活用に関する先進的な取り組みを学び、校内研修で共有した。

### ④教科指導力向上事業

5教科それぞれが以下の大学教授を招聘し研究授業および研究協議を行い、教科指導力の向上を図った。

国語科：竹田健二氏(島根大学)、数学科：御園真史氏(島根大学)、英語科：石川慎一郎氏(神戸大学)、地歴公民科：吉水裕也氏(兵庫教育大学)、理科：千代西尾祐司氏(島根大学教育学研究科)

### ⑤アクティブラーニング(AL)に係る研修

4月に石川慎一郎教授(神戸大学)によるAL理論研修、9月に尾木義久氏(関西学院大学アドミッションオフィサー)によるJAPAN e-portfolio活用研修、11月に乾武司教諭(近畿大学付属高等学校)によるICT活用研修を行い、ALに関する理論および実践的な取り組みを学び、授業改善に繋げた。

### ■B-2 (4) ①教職員の大学訪問

広島大学および岡山大学を教員2名が視察し、アドミッションポリシー、特色ある研究や施設、高大連携事業などの情報を収集し、校内研修で共有することで進路指導の充実を図った。

### ■B-3 ①進路講演会

保護者連携事業として進路講演会を実施し、生徒、保護者双方が大学入試の現状や大学入試に向けての心構え等について講演を聞き、進路意識の向上を図った。

## 4 総合所見(成果・評価)

校内における取組だけでは学力向上を実現していくことには限界がある。

生徒にとって難関大学を志す他校の生徒の存在はとても刺激を与えてくれるものであった。この事業を契機に学力向上をはかることができている。

また、この度の各事業を通して、生徒を指導する、教師の指導力を上げていくことができた。

特に各大学からおいでいただいた講師による研修は、現在の大学における教育の内容やさらに将来にむけて求められる能力や行動力がどのようなものでなければをしっかりと提示していただいた。先に求められる力を高校の現場がどのようにつけさせていかなければならないのかを各教師に理解させてもらった。

また生徒たちにもそれぞれの進路に向けた取り組みの方向性を聞く機会にもなり、さらなる進路実現にむけたものとなった。

今後も限られた時間のなかで、このような事業の存在は本校の学力向上のみならず、教師、生徒を共に成長させる事業となると思う。

※枚数任意